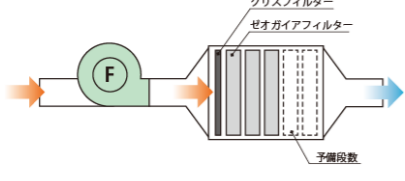

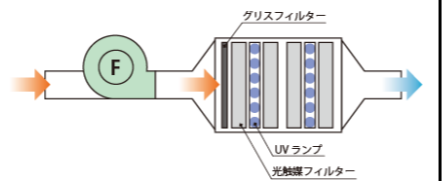
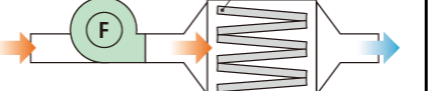
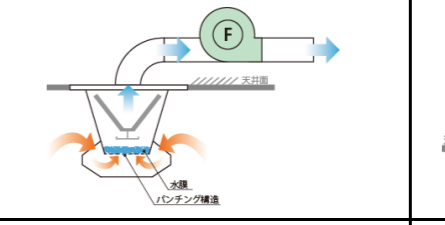
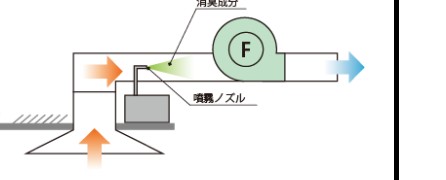


厨房排気対策脱臭装置 比較表

メーカー	(株)カルモア	A社	B社	C社	D社	E社
イメージ図						
脱臭材	不燃性セラミック無機繊維	触媒含有無機系吸着剤	光触媒	活性炭	水	ニオイ付き消臭剤
脱臭原理	ゼオガイア本体に臭気分子を吸着脱臭。臭気ピーク時に吸着脱臭し、厨房の休転時間に本体に吸着していた臭気分子を除去することで長期間性能を維持することが可能。複数種類の原材料を含有していることで、幅広い調理臭に対して強力に脱臭することが可能。	無機質系複合材をハニカム構造立方体ブロック状態にして、臭気成分を吸着し、脱着することによりピーク臭気を平準化する。	光触媒フィルター表面の酸化チタンに紫外線を当てる事でフィルター表面に酸化力の強いラジカルを生成し、このラジカルの分解反応により脱臭を行う。	活性炭表面の無数の細孔に臭気を捕捉することで吸着脱臭。	レンジフード内のガラスフィルター部分に機器を据え付けて、オイルミストを含んだ排気を水中に通すことで気液接触させ、ミストを除去すると共に、臭気を水に溶かし低減させる。	排気ダクト内に植物由来のニオイ付き消臭剤を噴霧することで、元のニオイを別のニオイで覆い隠すことで不快度を軽減させる。
面風速	～ 3 m/sec	～ 4 m/sec	～ 2m/sec	～ 1.5m/sec	—	—
大きさ	中	大	大	大	中	小
重量	軽い	重い	重い	重い	中	軽い
圧損 (Pa)	低い	高い	高い	高い	高い	低い
用役設備	不要	不要	必要 (電気)	不要	必要 (電気・水道)	必要 (水)
燃焼性	不燃性	不燃性	UVランプは可燃	可燃性	不燃性	不燃性
メンテナンス内容	1年に1回ガラスフィルターの交換 3年に1回一番負荷の掛かる1段目を交換。 他の段数は1段ずつ前に繰り上げる。	交換臭気の日目安は5年 (臭気成分・油分の負荷により2～10年) 脱臭剤は再生処理。	専用ガラスフィルター洗浄 (2回/年) UVランプ交換 (12h 使用時・2年毎) 光触媒フィルター清掃 (1回/年)	3～6ヶ月に1回活性炭の交換	定期的に水を交換する	定期的に薬剤を補充する
イニシャルコスト	中	大	大	小	小	小
メンテナンスコスト	中	中	小	大	中	小
ランニングコスト	無し	無し	大	無し	中	中
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 脱臭性能が高い 交換サイクルが長い 軽量、コンパクト、低圧損 脱臭性能が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 交換サイクルが長い 	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスコストが安い 	<ul style="list-style-type: none"> 脱臭効果が高い 脱臭剤として歴史がある 	<ul style="list-style-type: none"> 店舗内でメンテナンスが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 既設でも導入しやすい
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 油分が多いと交換サイクルが短くなる場合 	<ul style="list-style-type: none"> 装置が大きい 重量が重い 	<ul style="list-style-type: none"> ランニングコストがかかる 装置が大きい 重量が重い 低速で使用しないと効果が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 脱臭剤が可燃物 メンテ回数が多く、作業が煩雑 メンテコストが高い 	<ul style="list-style-type: none"> 主にオイルミストの除去が目的で、油由来や焼き焦げといった水に溶けづらい臭気は効果が低い メンテナンスが大変 	<ul style="list-style-type: none"> 他のニオイを付臭するので混ざり合ったニオイが不快になる場合がある。 臭気濃度自体は下がらない 定期的に薬剤を補充する必要があり、ランニングコストが掛かる